

令和7年度 中学生の「税についての作文」

沖縄国税事務所所長賞

山内中学校 伊佐 威李

私が税と聞いて真っ先に思い浮かべるイメージはあまり良いものではない。ニュースで目にしたことのある「増税」という文字や、よく耳にする「税金が高い」「払いたくない」などといったあふれる不満の声。これらが私の思い浮かべる税のイメージを悪くしていたのだ。実際、私は税に対する知識や意識がなく、唯一知っていたのは消費税くらい。商品を買った時に必ずついてくる消費税。私が払ったこの消費税がどうなるのかなど全く気にならないほどなんとなく払っていて、私の日常と税はほぼ無縁に近いと思っていた。しかし、学校で受けた公民の授業に、ほぼ無縁であろうと考えていた私の税への意識が大きく変わらされることになった。公民の税の授業では、「税を集めないと生活はどうなるか」を学んだ。まず、道路や橋、学校や病院といった公共の施設は、税金によって整備、建設されている。もし税金を集めないとなれば、これらの施設を整える資金がなくなり、社会全体の安全や利便性が大きく損なわれる。また、消防や警察などの公共サービスも機能しなくなり、緊急時に誰も助けてくれない不安な社会になってしまう。さらに教育や医療といった基本的なサービスも、有料になり格差が広がる可能性がある。裕福な人とそうでない人の間に格差が生まれてしまい、平等な社会からは遠ざかってしまう。このことから私は初

めて税の本質を理解し、税はこの社会に必要な不可欠な存在であると気づいた。今、思い返せば私の生活は税に支えられ助けられていたと、思い当たる節がいくつもある。毎年、新学期になると新しい教科書を貰っている。教科書に名前を書くとき「この教科書は、これから日本を担う皆さんへの期待をこめ、税によって無償で支給されています」とかかれた字が目に入つてくる。私は鼻炎を治すため一ヶ月に一回程、耳鼻科に通っている。無症状から最重症まで分類されている鼻アレルギーのガイドラインは五段階ある。私はその五段階である中の一番レベルの高い最重症だった。治すのには三年程必要と言われ、私はどれだけのお金を払わないといけなくなるのかと心配だった。しかし、薬を受け取る際に会計はなかった。理由はその時はまだ知らなかつたけど、税の授業を受けてそれは税が関係していたことに気づいた。もし税が存在しなかつたら私たちの暮らしは一見、少しお金に余裕があるようを感じるかもしれない。しかし本当にそうだろうか。公共インフラの維持、安全と安心を支える、教育や医療、これらの裏側では税が大きく関わっているのだ。税は個人の負担でありながらも社会全体の幸せと安定を守るための「必要不可欠な仕組み」なのだ。だから私たちは税の意義を理解し、大切にしていく必要があるのだと私は考える。